



岡山 皆さん分かっているけど、どう自分に落とし込んだらいいのかが分からないんじゃないかなと話していて感じます。夫の祖母に教わりながら農業もやっていますが、野菜を収穫するだけでなく農業体験などの付加価値を提供して収益をあげる方法もあるものでやり方次第かなと。

藤本 学生のヒューマンは公務員か金融業じゃないと戻らない人が多くて、職種とかそういう分野の仕事ってカテゴリー分けしてしまうと、どうしても都会に見劣りしてしまう。でも、最近の移住者は、農業もしながら物を作って売るとか、昔で言う副業みたいな事をやっていることが比較的多いですね。

岡山 商品のパッケージも、今までと違う若い世代にアピールするために、少しデザインを変えてみるのもありかなって提案しているところですか。

藤本 既存のやり方を大事にするとか、集落でも昔ながらのルールがあつて、そのやり方を大事にするのはすごく正しいことなんです。切かと思えます。でも、外から来た人ってその文化を共有していかないか混ざり合わせるのが課題だと思います。

行政の役割

市長 中和させたり移住者と地域の間に入ってうまく調整するのは市職員の役割だと思っています。例えばよそから来た人に「この地

域はこういう習慣があるので、これは守ってね」と、地域に入る時に基本的なルールを伝えるのは市職員です。また、農業や漁業のやり方を変えたり、新たなことにチャレンジする時も市職員が行って、こういうことをやってみないかと提案する。行政としての大きな役割だと思っています。

岡山 市役所の方はいろいろなサポートしてくださいますよね。

藤本 どういう暮らしをしたいとかここで何がしたいとかがまだ分からないけど、移住先を探している人が多いのですが、そういう人を舞鶴に紹介すると、「舞鶴ならこういう暮らしができますよ」と、いろいろな場所を回りながら一緒に考えてもらったりするんです。そこまでしてくれる職員がいるっていうことがまず素敵だなと思います。

岡山 心強いですね。

藤本 人の顔が見える関係性をどうやって作るかが大切だと思います。そこからこういう暮らしを真似したいと外から入ってくる人もできます。今住んでいる人たちが自分たちのコミュニティとか地域活動を面白いと感じることで、だんだんと層が広がっていくんじゃないでしょうか。いろいろな地域を見て感じるのは、移住した人と地元の人が別枠みたいな感じで、あまり混ざり合っていないなと思うことがあります。舞鶴は



大きいまちですし、移住促進をしなくても転勤や転職で来られる人も多いため、そういう人たちが移住した人たちが交流する場を作っていければ面白いコミュニティができるのではないかなと思います。

市長 舞鶴の人は人懐っこいんですが、社交性がよいとは言えないので、自分から積極的に付き合っていくよりは、よその人が近寄ってくるのを受け入れるんです。

岡山 ほんとにそうですよね。移住したての頃、村を歩いていたら「あんた誰や」と唐突に言われて「えっ」とびびりました。その時は自己紹介を、村の祭りや

舞鶴人の優しさ

市長 舞鶴の人は人懐っこいんですが、社交性がよいとは言えないので、自分から積極的に付き合っていくよりは、よその人が近寄ってくるのを受け入れるんです。

り、困ったことがあったら言ってもらってよと声をかけてくれて、おまけに焼き鳥とか買ってきてくれたりして、普段より豪華な夕食になっちゃったり(笑)。

掛け合わせることで新たな発見

岡山 夫は、漁業をしたいから移住したわけではなくて、自分が独立して何かをやりたいと思った時に、自分の持っているカードを並べてみたらしんです。東京で木製雑貨のデザイナーをしていたので、ある程度ブランディングの仕方は分かる、祖父が舞鶴でカキの養殖をしている、じゃあそのカードを組み合わせたらどうという面白いことができるかなって。今移住を考える人たちが、絶対持っている

るカードがあると思うので、それと、舞鶴にしかない資源を掛け合わせた時に、どんな面白いことができるのかを考えると何か見えてくるかもしれないですね。

市長 例えば、英語を話せる人はたくさんいますが、英語の手話と日本語の手話もできたら、手話を介して1つの仕事になる。1つひとつの時はありふれていても、それを2つか3つ重ねたら希少価値が出る。

岡山 同年代の移住者が「英語×クッキング」でクルーズ客船で観光に来た人に英語で料理を教えているのが人気です。

藤本 教育として子ども達にしても面白いかもしれませんね。

市長 工夫好きで、何かしようか

なと思う人は田舎に向いていると思います。都会は研ぎ澄ましたような最先端をやっている人はいいんだけど、最先端でなかったら意外と注目してくれない。

岡山 ほんとそうなんですよ。

市長 都会の良さと田舎の良さを併せ持つ都市環境を「このまちに生まれた子ども達もいいと思ってくれるのだから」とまっすぐりをしてきました。今白お二人話して、間違っていないかという思いです。

藤本 どんな人にこのまちに来てほしいですか？

市長 やはりその人の生活観、人生観、どういう暮らしをしたいかがマッチした人に来てほしいです。我々には何通りも生活パターンを提案できませんから、「便利な田舎」を提案するなかで、このまちに生まれてずっと住み続けてくれる子どもが7割、残り3割は舞鶴のことを良く知った上で、自分の夢を求めて都会に出ていくこともやむを得ない。都会でチャレンジするような若者がいる元気なまちでないといけないと思っています。

一方、都会で生まれたけれども地方の環境で住みたい人には、どんどん来てほしいですね。移住者や若者の見方、考え方は、刺激を与えてくれます。その知恵や思いをしつかり生かしつつ、これまでの



【協力・場所提供】
カフェ&デリ
Azur (アズール)
総合文化会館内 (浜)
TEL: 070-3248-1152